

家畜及び鶏の改良増殖目標のうち改良目標のポイント

乳用牛

- 長命連産性の向上や需要に応じた生乳生産のため、疾病抵抗性の評価を開始するとともに、バランス良く乳量・乳成分を改良。
- 暑熱耐性の改良の推進、飼料利用性等の導入などによる日本の飼養環境に適した改良を推進。
- 極端な大型化の抑制、搾乳ロボットへの適合性が高い牛へ改良。

豚

- 肢蹄に関する評価指標の改良現場での活用の推進。
- 生産コスト低減を図るため、1頭当たり育成頭数の改良を推進。
- 多様な消費者ニーズに対応するため、ロース芯への脂肪交雑を高める等により食味の向上を図り、海外産豚肉との差別化を推進。

めん羊・山羊

- 優良な種畜を確保するため、家畜人工授精技術等を利用した能力の高い種畜の生産及びその供給を推進。
- 生産性等の改良データの収集体制の検討・構築を推進。

肉用牛

※目標年度は策定時の10年後の令和17年度、鶏は5年後の令和12年度。

- 多様な消費者ニーズに対応するため、オレイン酸等の食味の向上に重点を置いた改良や研究等を推進。
- 食味、繁殖性、飼料利用性等、新たな改良形質に着目した改良の推進により、遺伝的多様性を確保。
- 肥育形態の1つとして、適度な脂肪交雑で、生産コストの低減等が期待できる短期肥育・早期出荷を推進。

馬

- 生産基盤強化のため、優良な種雄馬及び繁殖雌馬の確保と適切な利用に加え、家畜人工授精・受精卵移植技術の改善、理解醸成、普及を推進。

鶏

- 卵用鶏については、長期にわたり高い産卵性を維持する改良を推進。
- 肉用鶏については、生産コストを低減するため、飼料要求率と育成率の改良を推進。
- 国産鶏種（地鶏等）については、特色ある品質を保持しつつ、生産コストの低減を推進。

家畜及び鶏の改良増殖目標のうち増殖目標のポイント

乳用牛

○我が国の乳用牛改良基盤を維持するとともに、牛乳・乳製品の安定的な供給を確保し、牛乳・乳製品の需要動向に即した生産を行うことを旨として頭数目標を設定。

総頭数	127万頭（現在133.5万頭）
うち2歳以上の雌牛頭数	86万頭（現在 89万頭）

豚

○豚肉の需給動向に即した生産を行うことを旨とした飼養頭数を設定。

総頭数	790万頭（現在 880万頭）
-----	-----------------

めん羊

○種雄羊及び繁殖雌羊を含め、需給動向に応じた頭数となるよう努める。

山羊

○乳用、肉用のほか、多様な利活用に対するそれぞれの関心の高まりを踏まえ、需要動向に応じた頭数となるよう努める。

肉用牛

※目標年度は策定時の10年後の令和17年度、鶏は5年後の令和12年度。

○牛肉の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養頭数目標を設定。特に、希少血統の維持に留意しつつ遺伝的能力評価に基づく優良な繁殖雌牛の増頭を図り、足元の改良基盤を充実させた上で、今後の需給状況に合わせた和子牛生産を推進。

総頭数	290万頭（現在 268万頭）
うち肉専用種	219万頭（現在 189万頭）
うち乳用種・交雑種	71万頭（現在 79万頭）

馬

○利用目的ごとの需給動向に応じた頭数となるよう努める。

鶏

○鶏卵・鶏肉の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養羽数の目標を設定。

卵用鶏	172百万羽（現在172百万羽）
肉用鶏	141百万羽（現在141百万羽）

○また、多様化する消費者のニーズに応え、特色ある鶏の増殖に向けた種鶏の羽数が十分に確保されるよう努める。